

第4回県立特別支援学校編成整備に関する懇話会 概要

日 時：平成23年4月21日（木）13:05～15:04

場 所：県庁13階教育委員室

出 席：西原会長、上原委員、大城委員、緒方委員、金城委員、東風平委員、田中委員、玉元委員、【欠席：上間委員】

事務局：嘉数教育企画監、長浜主任指導主事（県立課）、大嶺

傍 聴：1人（報道関係者）

1. 決定事項

特になし。

2. 議事要旨（「特別支援学校編成整備の基本方向（素案）」について）

【方針2「軽度知的障害高等部を充実させる」関連】

- ・目標文中の「人数を下回る」という表現は、わかりにくい。
- ・充実させる方向は賛成だが、教育の内容が問題となる。
- ・現在の沖縄高等特別支援学校において、入学したくてもできない子がいるのに、入学して途中で退学しているもったいない状況がある。
- ・現在の沖縄高等特別支援学校の就職率や、離職率の状況は課題ではないか。
- ・学校を卒業して後の、社会の方の障害者の受け皿づくりが進んでいないのではないか。
- ・地方の産業にあうような学習单元を考える必要がある。
- ・病弱や肢体不自由の高等部で、情報に特化したコースを設けてはどうか。
- ・高等学校にも、特別支援学校から学びたいという子どもがいれば積極的に入学させる条件整備も大切ではないか。特別支援学校で全てをカバーするわけではなく。
- ・社会的自立を目指して教育していく教育委員会こそ、率先して障害者の法定雇用率を達成し、知的障害の方でも働ける場をつくって示してほしい。

【方針3「効率的・効果的に看護師を配置する」】

- ・看護師配置が、編成整備計画における検討課題となるか疑問だ。
- ・特別支援学校全体で障害の重度・重複化が進んでいる状況から、肢体不自由と病弱の特別支援学校のみで看護師を配置するとは言えないのではないか。
- ・目標でいっている「拠点校」は、肢体不自由及び病弱におけるの拠点校であるということを書き明しておくべきではないか。
- ・各特別支援学校で特色を出していこうという流れにおいては、拠点校方式は問題はない。

【方針4「交流・共同学習を積極的に推進する」】

- ・目標でいう「学校内に設置された」の「学校」とは、小・中・高等学校なのか特別支援学校なのかがわかりにくい。
- ・目標の表現では、分校・分教室だけで交流及び共同学習を推進するととらえかねない。
- ・現在でも小中学校の中に特別支援学級があるわけだから、そこでも交流及び共同学習を進めてほしい。何も分校・分教室でなければならないということではない。

【方針5 「より身近な地域で就学できるようにする」】

- ・北部の子どもが幼稚部から沖縄盲学校や沖縄ろう学校に通うのは、大変なことだ。小さいときから親元を離れることにもなる。
- ・子どもを地域に戻し、地域から支援を受けられるような体制づくりが一番良い。
- ・今後も特別支援学校に通う子は多くなり、交通渋滞もひどくなる。1時間20分という目標を達成するのは無理ではないか。
- ・方法論は実施計画で議論されるべきで、逆に1時間20分にするにはどうしたらいいかという議論になる。様々な方法がありうるんだと思う。
- ・地域で子どもたちを受け入れてほしいというのが特別支援教育の大きな狙いである。それをはっきりと文書で打ち出すべきで、現在の書きぶりはごまかしている。
- ・学校ごとにスクールバスを配置しているのは、沖縄県くらいだ。他県では共同運行している。そういうことを取り組まなければならない。
- ・地域で就学というのは賛成だが、教育の専門性の確保が懸念される。

【方針6 「施設改築に向けて整備計画を策定する」】

- ・東日本大震災もあり、そのような視点から安全・安心な学習環境の確保を考えてほしい。
- ・大平特別支援学校などは、教職員も入れると500人を越え、緊急時には避難する場所が確保できないのではないか。建築物としては素案の通りだが、災害を想定して整備計画を考える必要があるのではないか。